

介護補助職で定着率向上

得意なこと仕事に 信頼関係も醸成



柳沼さん

神経質で注文の多い入居者の居室の掃除を担当してもらってからクレームは一切なくなったそうだ。ストレスが減った介護職が「スーパーヒーロー」と称賛するのも、単なるアシスタントというより戦力に十分値する存在になっているからだ。法人ではこの施設以外にも有料ホームや特養ホーム、保育所などを運営し、全施設でケアアテン

「資格があろうとなかろうと、一緒に働く人を尊敬し、認め合うことができる職場を作ることが人材の定着に欠かせないと思っています」

人材不足の解消に、無資格の中高年齢者や主婦などをアシスタントとして活用する現場が増えている。社会福祉法人三幸福社(本部＝東京都葛飾区、鳥居秀光理事長)が導入している「ケアアテンダント」もその一つ。単なる補助的な位置付けではなく、1人ひとりの得意なことを發揮できるように仕事を任せられることで、スタッフや利用者から信頼される戦力になっていくという。

「現場スタッフにとってもご利用者にとっても、想定以上のメリットがあります。うちではスーパーヒーローと呼ばれ

ています」

そう話すのは、三幸福社が文京区で運営する介護付き有料老人ホーム・杜の癒しハウス文京

関口の柳沼亮一施設長だ。同施設では昨年から、定年退職した地域住

民など3人を補助業務に特化した「ケアアテンダント」として採用している。仕事内容は事務作業や掃除、洗濯物たたみなどなどの周辺業務が中心だが、「一律に業務を決めつけず、本人のやりた

いことや得意なことを生かせるように考えています」(柳沼さん)。

例えば、人の話を聴くのが上手なAさんは、傾聴ボランティアとして入居者からひっぱりだて。

隅々まで丁寧に掃除をするBさんには、ちょっと



駅近で交通の便も良い「杜の癒しハウス文京関口」

でも現場への貢献が認められれば即時給を上げるなどの対応をしている。こうした待遇が励みになり、中には介護福祉士やケアマネジャーの有資格者で離職した人がまたフルタイムで働く意欲を持ち直したというケースもあるそうだ。

社会福祉法人三幸福社